

# アチエメックの風

あいち小児保健医療総合センターだより



第67号

令和8年 冬 発行

●発行●

あいち小児保健医療  
総合センター

## 診療科トピックス

### 内視鏡手術 創が小さく負担の少ない手術

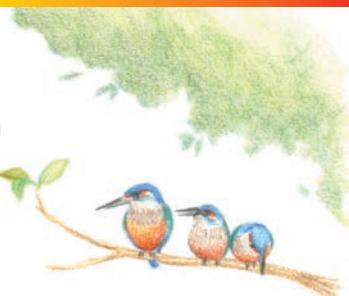
小児外科は主に腹部、胸部（心臓を除く）、体表の手術を担当しています。近年、腹部や胸部の手術では内視鏡手術が増えています。内視鏡手術とは体に小さい穴を数カ所開け、そこから内視鏡や様々な器具を挿入して、体内の状態をモニターに映しながら行う手術です。腹部の手術では腹腔鏡手術、胸部の手術では胸腔鏡手術とも呼ばれます。

内視鏡手術のメリットは、なんと言っても創が小さくてすむことです。そのため整容性に優れています。また拡大して見える、体の奥の方もよく見えるなど、外科医にとってもメリットがあります。

現在、当院では小児外科の手術のうち6割くらいを内視鏡手術で行なっています。特に鼠径ヘルニアに対する内視鏡手術（LPEC法）はセンター開設時より導入しており、これまでに2,000件以上の手術を行っています。LPEC法では内視鏡と鉗子を腹腔内に挿入して、ラバヘルクロージャーと呼ばれる専用の針を使用して手術を行います。当院では通常よりも細い鉗子（径2mm）を使用しており、爪楊枝くらいの太さです。そのため創はほとんど目立ちません。

その他にも虫垂炎や胃食道逆流防止手術などの腹部の手術、肺や縦隔といった胸部の手術も内視鏡手術で行っています。病気によっては安全、確実に手術をするために大きな切開が必要となるものもありますが、少しでも手術を受ける方の負担が少なくなるように、安全にできる範囲でできる限り創を小さくする努力をしています。

小児外科



内視鏡手術の様子

内視鏡（スコープ）

鉗子

針（ラバヘルクロージャー）

腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術（LPEC）の道具



# 新任医師紹介

令和7年12月31日現在

- 令和7年度6月以降、新たに8名の医師を迎えました。



吉田 修一朗  
新生児科



穂積 拓考  
集中治療科



細川 博紀  
集中治療科



宇都宮 有美  
小児外科



笠原 史帆  
眼科



足立 建敏  
産科



鈴木 このみ  
内分泌代謝科



福井 理史  
救急科



## お知らせ

このたび、当センター長 伊藤浩明が、昨年11月に永眠いたしました。ここに謹んでお知らせ申し上げます。

伊藤センター長は、「最高の医療を子どもの手に」をモットーに、こどもたちに寄り添った医療の提供に努めるとともに、われわれ職員のよき指導者でした。その志と功績を、私たちはこれからも大切に受け継いでまいります。

関係者の皆さんにおかれましては、これまで同様、当センターの活動につきまして、ご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

令和8年1月  
副センター長 村山 弘臣

看護部だより

## 22病棟

こんにちは、22病棟です。当病棟は、小児外科、泌尿器科、形成外科、歯科口腔外科、耳鼻咽喉科などで手術を受けるお子さんを支援する外科の混合病棟です。乳児から思春期まで幅広い年齢の子どもたちが手術を受け、近年では心臓疾患や総合診療科の入院も増え、幅広い治療に対応しています。

手術を受ける子どもたちは、年齢が様々で、痛みや不安を言葉で伝えられない子も多くいます。そのため、私たち看護師は、表情や様子、言動、バイタルサインなど、様々な情報を集め、苦痛を少しでも緩和できるよう日々関わっています。私たちの役割は、子どもの苦痛を取り除き、親御さんの不安を軽減することであり、言動や様子をしっかりとみることを大切にしています。

そして、医師や保育士等を交えた多職種連携を大切にし、集めた情報を元に様々な職種と話し合い、子どもや家族のために何ができるかを毎日考えています。また、「小さいから分からない」と決めつけず、これから行うことをひとつひとつ丁寧に説明し、子どもたちが自分のこととして受け止められるように接しています。

22病棟は、「病気を抱えながらもその子らしく、その家族らしく生活できるように入院中から退院後までサポートをしていく」病棟です。退院時に「この病院でよかったです」と思ってもらえるような支援を今後もしていきます。



カンファレンスの様子



みんな大好き  
アイロンビーズ！



# 私たちも活躍しています

## スタッフ紹介

私たち薬剤師は、有効で安全な薬物療法を支援するために、日々様々な業務を行っています。業務の主体は、処方箋に基づいた薬の準備とその薬の飲み方・使い方の説明です。当センターの薬剤部は、処方箋を1日あたり約470枚（2024年度）扱っています。その処方の薬の量や飲むタイミングなどが適切なものか確認し、必要があれば医師に問い合わせを行います。

当センターは小児病院なので、新生児から成人手前までの患者さんが大半を占めています。そのため、なんでも飲める患者さんもいれば散剤しか飲めない患者さんもいます。また、患者さんの特性や疾患の内容に応じて錠剤をつぶしたり、カプセルをはずして中の薬だけを分包したり、患者さんそれぞれに合わせたお薬を用意しています。

お薬の説明をする際には、効果や副作用だけでなく、保管の

患者様の指導用・  
練習用器具の一部

仕方やおすすめの飲ませ方などお渡しした後の生活についても考えていきます。お薬を苦手とするお子さんは多いです。「混ぜてもいい食品は?」「生活リズムに合わせた内服タイミングは?」「おすすめの飲ませ方」は薬の性質、生活習慣、保護者の方の協力、それぞれのお子さんの特性に合わせてご提案します。

“おくすりは、味方であること”を患者さんだけでなく、保護者の方にも伝えていければと考えています。



## 医療連携室（患者様をご紹介いただく医療機関の皆様へ）

当センターの医療連携室は、地域の医療機関の皆様との円滑な連携に努め、患者様に専門的な医療を提供しております。

ご利用には「登録医としての登録」と登録医からの「診療申込み」が必要となります。  
当センターの医療連携室を是非ご活用ください。

**TEL.0562-43-0508 FAX.0562-43-0510**  
**URL:<http://www.achmc.pref.aichi.jp/>**

受付 月曜日～金曜日

時間 9:00～17:00

祝日、年末年始を除く。

## 外来診療のご案内

- 外来受付は、A～Dのブロックごとの受け付けになりました。
- 再診の際は、再来機受け付け後、グリーンファイルを各自で取り、診察へお進みください。
- 詳細については、ホームページ等でお確かめください。
- 当センターの受診は、紹介予約制です。お電話にてご予約ください。

**予約電話番号 0562-43-0509 ファクシミリ 0562-43-0510 (9:00～17:00まで)**

◆診療時間  
午前9時から正午まで／午後1時から午後4時まで

◆休診日  
土曜日・日曜日・祝日・年末年始



## あいち小児保健医療総合センター

〒474-8710 大府市森岡町七丁目426番地  
TEL(0562)43-0500 FAX(0562)43-0513  
URL:<http://www.achmc.pref.aichi.jp/index.html>

